

労働時間の付加価値を高めるために ケアプランデータ連携を活用する

2024年2月14日

社会福祉法人信愛報恩会

デイサービスセンターみどりの樹

管理者 國田愛





みどりの樹 清瀬

Being with your life

～サービス付き高齢者向け住宅 34室
～通所介護サービス 1日定員 30名

生産性向上の取り組み



ICT活用と生産性向上の取組

2020診療報酬改定

2021介護報酬改定

2022診療報酬改定

2023

2024同時改定

LIFE /ICT配置緩和

東京都
デジタル環境

お仕事財団
テレワーク助成

東京都
負担軽減支援

コロナ補助金

東京都
次世代推進

JKA助成金

東京都
次世代推進

生産性

生産性

Phase 5

ICT活用 + 生産性向上
① センシングや記録・LIFEデータ分析に基づく科学的介護の知見蓄積
② ケアプランデータ連携の促進
③ MeLL+Familyの促進

Phase 4

ICT活用 + 生産性向上
① ケアベーシックのスタンダードマニュアル
② データ分析に基づく科学的介護の知見蓄積
③ センシング技術の居宅サービス応用
④ ヒト+ロボットのコラボワーク
⑤ MeLL+Familyの展開

Phase 3

① 生産性向上
② センサー活用のスタンダードづくり
③ データ化と分析
④ 新しいテクノロジーの試行評価

Phase 2

① 信愛地域包括ケアシステムの確立
② 見守りセンサーの活用と定着
③ LIFE準備

Phase 1

① 見守りセンサーの活用
② 記録のデータ化

これまでの生産性向上の取り組み

令和3年度 業務改善活動報告書

法人名：社会福祉法人信愛報恩会
事業所名：デイサービスセンターみどりの樹

3. 現場の気づき・困りごと

■ 気づきシート

- * 事前にメンバーに対し、日頃行なっている業務の中で
 - 気になっていること
 - 問題に感じていること … など
- 日常の気づきを記入する『気づきシート』の記入を依頼。
→ シートの内容を付箋に書き出し、画用紙に貼りつける
→ 内容を見ながら、グループ分け(グルーピング)をする

『気づきシート』



ここから取り組んでいこう』

9. 取り組んだ結果

- 取組をすすめて、どのような成果物ができましたか？

	改善前	改善後	改善後の時間配分
1	30分	20分	13:35-13:55
2	90分	60分	13:50-14:50
3	70分	40分	13:10-13:50
4	80分	20分	13:20-13:40
平均	67.5分	35分	48%の時間短縮に繋がった

平均して14時頃には記録を終えられるようになった

令和4年度厚生労働省委託事業

介護現場における持続的な生産性向上の取組を支援・拡大する調査研究事業一式

改善活動の最終報告書

法人名 社会福祉法人信愛報恩会
事業所名 デイサービスセンターみどりの樹

改善活動の実施 ステップ 1～2

ステップ1 改善活動の準備をしよう

チームメンバーの
構成

リーダー：小美野 奈央
メンバー：高田 里加（相談員）
小野 美代
相談役：園田 恵（管理者）

ステップ2 課題を見える化しよう



改善活動の実施 ステップ 5～6

ステップ5 改善活動を振り返ろう

目標に対する
取組の成果

<業務効率>
入力時間が1人あたり7分→1分へ短縮させることができた

<介護サービスの質の向上>
内容がバラバラだったが、記録に必要な内容を決め定型文を作成することで内容の統一が図れた。

ステップ6 実行計画を練り直そう

今後の計画や
実施事項

定型文を入れることで内容は統一されたが、変化があった際の入力がいまだに足りない印象がある。変化があった際の入力に対するルーティーンの確立をし、さらに内容精査を行ない、より良い記録ができるように工夫していきたい。

みどりの樹清瀬 生産性向上の取り組み

信愛報恩会 生産性向上プロジェクト

検討会報告

事業所：みどりの樹デイサービス

発表者：小美野奈央

チームメンバー：栗原亜矢、芳賀礼子、小美野奈央



気づきシート（分類）

連絡ノート

- 連絡ノート記入に時間がかかる
- フロアが手薄になる
- 他職員の見守り

今回の取り組み

- 手順の多さにより時間がかかる
- 利用者の帰宅時間に影響

解決！

次回以降取り組む課題

送迎時

- 送迎に出る職員が多いため、フロアが手薄になる
- 利用者が何もしない時間が増える

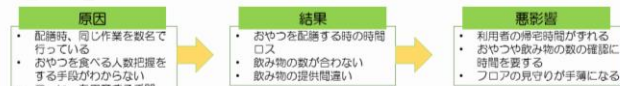
レク

- 年間スケジュールがないため、その日その日で内容が薄い
- 準備が整っておらず、利用者を持たせる

課題・課題整理（因果関係図） 7つの取組

□課題 おやつ準備から提供までの円滑化

□因果関係図



□取組（7つの取組より）



改善計画書

- WHY** およつ準備に時間がかかる！⇒およつ準備～配膳までの円滑化を図る
- WHICH** ・フロアの職員全員が
・利用者様へのより良い時間を提供するため
- WHEN** ・3月11日からプロジェクトスタート
・実施は5月から
- WHAT** ・マニュアルの作成⇒実際に使用し評価を行なう
- WHERE** ・プロジェクト会議は業務内、業務外の時間を使い
・実施は、デイ営業時間内での取り組みとなる
- HOW** ・マニュアルを作成し、職員全員のサービス確化
・また、意識付けを行ない、各自が進んで動けるよう話していく

みどりの樹清瀬 生産性向上の取り組み

お掃除ロボット

掃除 8 時間以上削減/月
+ 毎日掃除水拭



受付システム

事務所を空に
(LINEWORKS通知)



ペットカメラ

玄関、廊下
動作、音、温度の通知



みどりの樹清瀬 生産性向上の取り組み

AI姿勢 & 歩行分析

機能訓練（看護師）の評価補助

利用中・帰宅後の自主トレメニュー

ChatGPT

教育的活用

文書校正・事故報告書の校正



全身姿勢改善プラン

特におすすめはこちら

胸張り運動

10・3セット

- 椅子の上に着きます。
- 背中を丸め、手を前方に出します。
- 胸を張り、肩甲骨を背骨に引き寄せるように、手を後ろに伸ばします。

ポイントⓧ 肩をすくめないように注意しましょう。

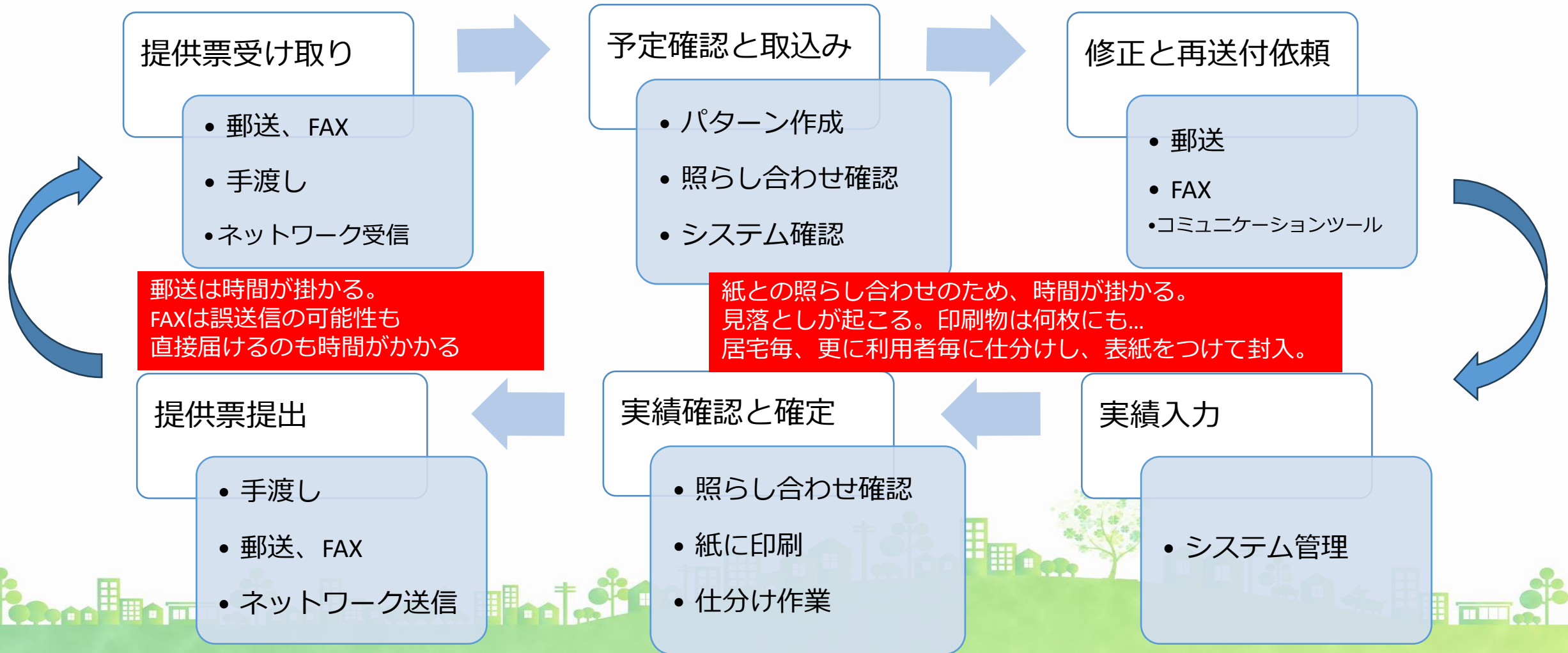
You
事故【事故の状況】お迎えに行きサービスに到着到着後、カバンを忘れているのに気づく。
【事故への対応】お詫びをして本人と清戸の里へカバンを取りに行く。清戸の里につきカバンを取りサービスに着くまで45分時間かかる。

- ChatGPT**
この事故の状況と対応について、以下の点が重要です：
- 事故の状況の明確化:** 利用者をお迎えに行く際に、到着後にカバンを忘れたことが気付かれました。この点は、事故がどのようにして発生したかを明確に示しています。
 - 事故への対応の速さと適切さ:** 事故が発生した際には、すぐにカバンを取りに行くという対応が行われました。また、お詫びも行われたことが述べられています。これらの行動は、事故に対する迅速かつ適切な対応であり、利用者や家族への信頼を維持する上で重要です。
 - 移動時間の記載:** カバンを取りに行くための移動に45分かかったことが述べられています。これは、事故への対応に時間がかかったことを示しています。今後の対応では、より迅速な行動を心がける必要があります。

ケアプランデータ連携システム導入

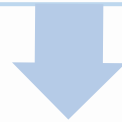


ケアプランデータ連携システム導入前の流れ



ケアプランデータ連携システム導入の目的

- 郵送は**時間が掛かる**。問い合わせに対しFAXをすることも。
- 近い居宅には、**直接お届け**している。
- 紙との照らし合わせのため、時間が掛かる。**見落としが起こる**。
- **印刷物は何枚にも...** 居宅毎、更に利用者毎に仕分けし、表紙をつけて封入。



コスト削減

1. 超過勤務時間を減らしたい
2. 紙の使用を減らしたい
3. 通信費、燃料費を減らしたい

生産性向上 (業務改善)

1. **間接業務時間**を減らしたい
2. 出来た時間をご利用者へのサービスに

使用しているシステム

デイサービス（サービス提供事業所）

WISEMAN

デイサービス管理システムSP（記録・請求システム）



**WISEMAN
提供表連携**

居宅介護支援
WISEMAN
在宅ケアマネジメント
管理システムSP
（記録・請求システム）



**郵送・手渡し
FAX**

居宅介護支援



**ケアプランデータ
連携システム**

居宅介護支援

この**利便性の良さ**を
知っていたことの意味合
いは大きい

運用開始までの経過

2023年 4月12日	事前利用申請 ・国保連ユーザーID申請 ・製品ダウンロード	申請窓口がわからず、申請までに数日間を要した ・法人内居宅が申請済みとのことで相談
2023年 5月10日	利用開始手続き	料金発生 ・この時点で導入居宅なし ・数件の居宅に導入予定確認するが 予定なしの回答
2023年 7月末～	運用開始	・7月中旬に居宅1事業所より 問い合わせのFAX 回答をきっかけに運用開始 ・ ワムネットの掲載を見た と問い合わせをきっかけに 運用開始

ケアプランデータ連携システム導入前の工数



実際の取り込み操作の様子



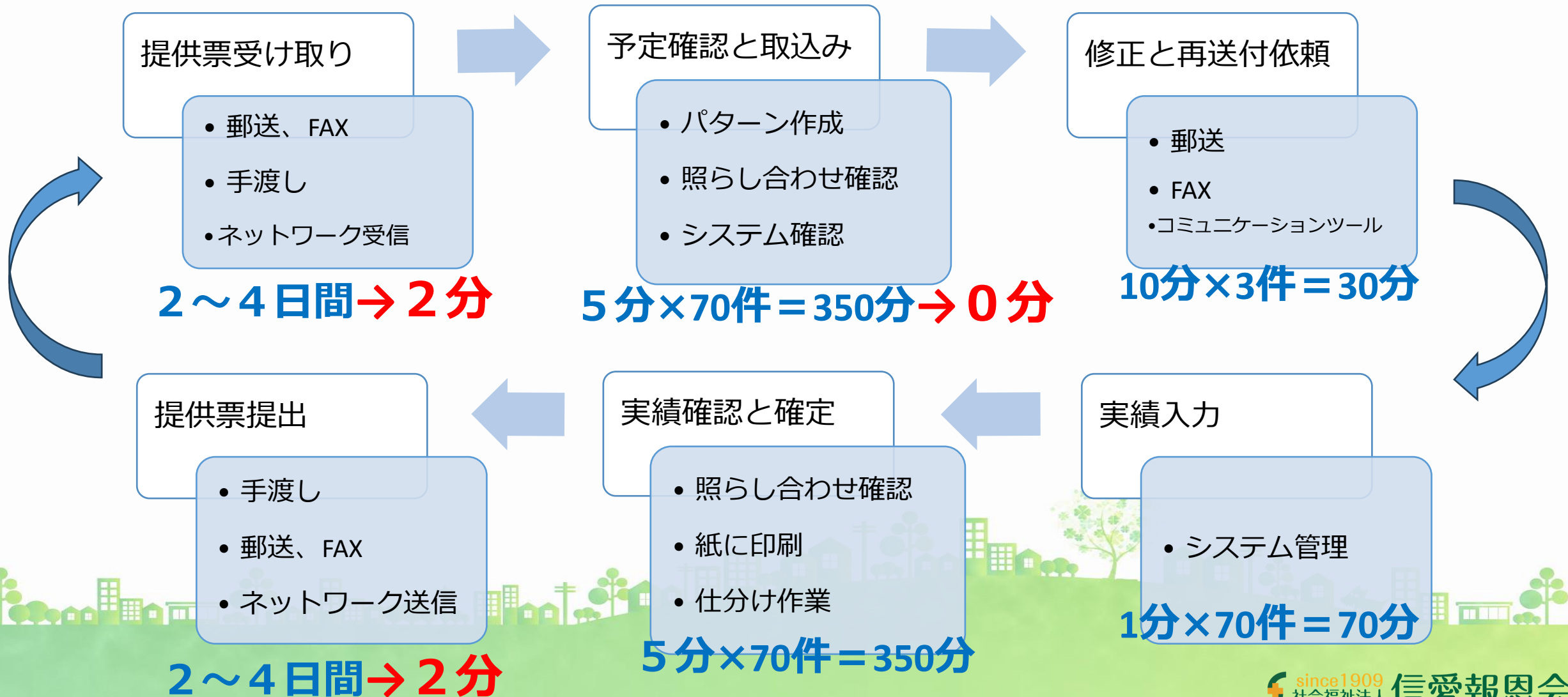
埼玉県新座市『かくの木介護支援事業所』様のご協力いただきました

実際の取り込み操作の様子



埼玉県新座市『かくの木介護支援事業所』様のご協力いただきました

ケアプランデータ連携システム導入後の工数



ケアプランデータ連携活用の結果①

～全利用者がデータ連携出来た場合～

提供票印刷	【お渡し分】 最低2枚/1名×70枚 【控え分】 最低2枚/1名×70枚 <u>280枚削減</u>
実績確認作業	5分/1件×70名 <u>350分削減</u>
仕分け作業 封入作業	1時間/1.5名 <u>90分削減</u>
配布作業	2時間/1名 <u>120分削減</u>

紙：280枚+α 時間：560分の削減！

ケアプランデータ連携活用の結果②

～実際に利用して感じたこと～



- データ連携システムからのデータ取得・送信作業は**比較的簡単**
- 取得・送信作業は**あっという間（短時間）**で完了
- 提供票データを直接取り込むため、**転記ミス、確認ミスが減る（返戻・過誤が減る）**
- 紙でのやり取りがなく、**紛失の恐れがない（これが一番怖い）**
- 連携できるところが増えないと・・・**楽にならない！**

ケアプランデータ連携活用の結果③

～労働時間の付加価値が高まる～

全居宅が導入すると、

560分/月 ご利用者と共に過ごす時間が増える
今までやりたくてもできなかったことができる！

